

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム昭ちゃんの家
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県志布志市有明町蓬原554番地6号
記入者名 (管理者)	原田 誠
記入日	平成 21 年 6 月 19 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして、運営方針においては入居者の方々が安心して生活できる家づくりを目指して地域と密着したホーム作りを理念としています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は朝礼時に勤務者全員で復唱し、又、目につきやすいように玄関、リビングと掲示しています。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域住民の方々へは行事参加の呼びかけをし、ホーム内の見学をして頂いている。御家族へは、年4回の昭ちゃんだよりを配布している。		ホームだよりの発行や、行事参加等を通して目的や理念を紹介していく。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常生活の中で買い物や、外出に出かける際に、近隣の方々や挨拶を交わし、話をするなど意識的に関係づくりを行っている。		近隣の方がゲートボール場にて週2回足を運んでいるので気軽に入って頂けるような身近な関係づくりをしていく。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動へは奉仕作業へ参加し、行事への呼びかけ、中学生の一日体験学習の受け入れも行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	年4回のホームだよりに認知症介護の勉強コーナーを設けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義をスタッフへ説明、協力して自己評価へ取り組んでいる。職員会議等で報告し改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に地区の部落会長も参加している。地域の実績や活動状況の報告、意見や助言、要望を出してもらい、サービスの向上に努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎回運営推進会議に出席して頂いており、お互いに情報収集ができ、事務的な手続き等を行っているのが現状である。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している			
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を設置し、職員会議で話し合いを行ったりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、時間をかけて丁寧に説明している。重要事項説明書や契約書に基づき、ホームの介護に関する考え方や活動、入退居も含めた事業所としての対応可能な範囲や医療連携体制など詳しく説明し、理解、納得、同意を得た上で契約をしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>2ヶ月に1回運営推進会議や、家族参加の行事等に意見や話し合いの機会を設けている。又、カンファレンス時に話し合いや連携に努めている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、月次報告や昭ちゃんだよりを発送し、健康状態や日常生活、各行事の様子を報告。又、面会時に普段の様子などを話している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>アンケートやカンファレンス時に要望、意見等を聞いている。又、玄関先に意見要望箱を設置しています。</p>		<p>遠慮をされている面があるため、面会時に積極的に話を伺うようにしています。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の職員会議、カンファレンス、朝のミーティング時にスタッフより、意見要望など話し合う場を設けている。理事長は毎日朝・夕ホームへ訪問し話をするようにしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>御家族の都合に合わせてられるよう、勤務体制を組んでいる。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>移動や交代がないのでそれほど影響はない。新しいスタッフへは勤務になれるまで引き継ぎをし、勤務の組み方にも配慮している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会、グループホーム連絡協議会の勉強会等にはできるだけ多くのスタッフが参加できるようにしている。又、研修報告も行い、職員会議等で報告している。会議時、時間がある時は独自の勉強会も行っている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新入社員(現職職員も含む)の研修、見学に地域のグループホームに行き、そこでの取り組みを勉強したり、グループホーム連絡協議会に加入し研修会等の参加に積極的に取り組んでいる。マンネリ化しないように介護の質の向上の機会を定期的に設けている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	理事長は朝・夕毎日ホームへ訪問し、スタッフと話をする場を設けている。管理者は日常的にスタッフから話を聞く機会を設けている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	理事長から週1回連絡ノートを利用し運営の支援を行っている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学を兼ねて、雰囲気を見て頂いたり心身の状態、生活状況を把握するために事前面談を行うようにしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時に、御家族の意向をよく聞き、グループホームでの提供サービスや介護理念を話して、安心してサービスを受けて頂くよう説明している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況を聞き、利用開始まで一連の手続きですすめているが、空き室がない場合は他の利用サービスを受けていないか。受けていない場合はその後のサービス利用につなげられるように支援する対応を行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用の際(申し込みの時等も)事前にホームへ来て頂き、お茶を飲んで過ごしたり、話を一緒にさせていただいています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や花、野菜の苗植えなど、利用者へアドバイスを頂きながら行っています。日頃の料理の味付け、盛りつけ、配膳、野菜切りなど、無理強いのない程度に行っています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時等、家族とのコミュニケーションを図り、本人の毎日の様子、状態を伝え、家での様子も伺いながら、何でも言ってもらえるような関係づくりに努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時等、外出や外泊を勧めています。又、敬老会や忘年会等への行事の参加をして頂き、一緒に過ごして頂いています。毎月の報告書のほか、ホームだよりも年4回発行し、季節ごとの利用者の様子を書き込み郵送しています。		今後も更なるよりよい関係づくりを継続していく。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族の協力をもらいながら、近所へのドライブ、親戚、友人との交流を勧めています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お茶や食事時間に、職員も利用者の輪に入り、会話がはずむように配慮しています。利用者同士トラブルにならないように座席や役割づくりなど、利用者同士の関係が良好に保てるように、職員が調整役となって支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が終了された方でも、必要な場合は気軽に相談して頂けるような関係づくりに努めています。入院治療が必要で退居となった利用者の場合は、お見舞いに行ったり、御家族と話をするなど、関係継続に努めている。		御家族が時々訪問して下さることもあり、入居者やスタッフも時々は墓参りに行っている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動、表情から、本人の思いや希望などの把握に努めている。把握困難時は、御家族や知人より情報を得たり、カンファレンスでの職員の気づきを出し合い、介護へ反映できるようにしています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中で、又御家族へは面会時話を伺い、情報把握に努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の生活リズム(食事量、嗜好、睡眠、排泄パターン、習慣、体調等)の把握を行い、行動や表情からの気づきを大切にし本人の「できること」を1つでも多く見つけ、全体像の把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や御家族の思いや希望を聞き、介護計画に反映させています。又、職員からの意見をカンファレンスや日常のミーティング等を通して把握し、介護計画作成に活かしています。		「何も言うことないです」と言われる御家族もあるので具体的に要望を聞けるように話をしていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人、御家族の要望、スタッフからの意見、介護記録等を参考にして期間終了前に見直しをするように努力している。		入院された利用者がいたが、退院後にスタッフ間での話し合いで、今後のサービス計画について話をする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の重要性を認識し個々の書き方等を工夫し記入できていると思います。特変時等も記入しわかりやすく誰が見てもその時の状態、様子等記入するよう一人一人もう少し書ければよいと思います。		特変時等の記録の工夫を検討していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望者は、同法人のクリニックで、リハビリや電気治療、定期的な健康診断が受けられる。又、毎朝開設者である院長の訪問があるので、健康状態の把握も随時できている。急な診療を要する場合は、院長宅が隣地にあるので対応も可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	中学生の職場体験、個人ボランティアの方の訪問もあり、年2回消防訓練を行い、消防署、地域住民の協力を得ています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	希望の申し出がない。		希望があれば、利用者や御家族に情報提供を徐々に行っている。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	まだ協働関係に至っていない。		包括支援センターに声掛けはしている。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に、かかりつけ医についての説明、利用者、御家族の同意を得ている。急変や他科受診は基本的には御家族にお願いしているが、状況によっては、職員が同行する場合もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の主治医が、別にいる入居者もあり、相談体制はできている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同法人のクリニック看護師が、午後から院長と訪問するので、その時に、日頃の医療面、健康管理等での助言対応を行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、主治医、スタッフ、御家族との連携を密にとるようにしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについて御家族への話は行っているが繰り返し話す必要があると思う。全職員の方針の共有も再度行う必要もあると思います。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化し、受け入れ先が見つからない場合、本人や御家族の希望に沿えるように、また納得の得られる終末期の過ごし方を支援できるような体制づくりをしていかなければならない。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	生活環境が変わっても、これまでの介護の延長上にあるような支援、情報提供を行い、住み替えによるダメージを最小限に抑えるよう努力している。		その後訪問して状況確認している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ケアを行っている時は羞恥心に配慮し他者への配慮を心がけている。利用者の尊厳を守ることやプライバシーを損ねないような対応は入社時の誓約書にもうたって、その重要性を周知徹底している。採用後も話し合いの中で管理者、開設者等が点検している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>あらゆる生活の場面において利用者の希望や意見を尊重している。毎日の料理、入浴の希望、外出の希望、買い物の際の食材選び等取り組みを行っている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の日課はあるが、あくまでも決まりではなく全体の目安である。その方一人一人に合わせた生活の流れになっている。スタッフの都合を優先させることなく柔軟に対応している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>身だしなみにおいては朝、入浴後等衣類や髪を整え、衣類等わかる方は本人に着る服を聞いたり選んでいただいている。散髪も希望があれば予約していただいている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>お手伝いをいただき、準備から調理まで一緒に行っている。片付けもお手伝いいただき支援できている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お茶の時間や、風呂あがりなど、飲み物やおやつも嗜好品を多数そろえているようにしている。買い物に行った時は好きなものを選んでいただいている。又、御家族からの差し入れも多く、部屋でこっそり食べている方もいらっしゃる。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表による記録と定時の排泄声かけ、誘導によりオムツ使用でも日中はトイレで排泄できるように支援している。失敗時には羞恥心に配慮して処理するようにしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	スタッフは入浴状況の把握をしている。入浴拒否されても時間を置いたり、スタッフが代わって誘導したり、年1回は温泉に出かけている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ラジオ体操やりハビリ、家事、散歩等日中の活動をするにより生活リズムを整えている。その日の体調を見てその人にあった過ごし方を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人にとって張り合いのある毎日であるように、笑顔が見られるように支援している。お手伝いをいただいた時にはねぎらいの言葉や感謝の言葉を忘れないようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば少額のお金を持って時には買い物をしたりしていただいている方もいらっしゃる。なくす可能性があるので御家族には定期的チェック(こちらでもしています)と御理解を得ている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の希望、心身状況に応じて、畑や庭の草取り、散歩、病院受診、車で外出(ドライブ、買い物、外食等)日常的に取り組んでいる。季節を感じたり、思い出の場所に出かけたり、思わぬ人との出会いがあったり、歩行が困難でも外出できる喜びのある機会を積極的に設けている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段の会話から行ってみたい所を聞いたりして、遠いところは職員で話し合い計画を立てて、出かけるようにしている。又御家族にも協力していただくこともある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は常識的範囲内の時間帯では希望的にかけることができ、又家族からかかってくることもある。手紙や葉書のやり取りもしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は自由に設定してある。訪問時は部屋で過ごしたり、リビングで他の入居者との会話をしながら過ごしたり出来るようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置している。職員会議の中で話し合いを行ったりしている。マニュアルも作成している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や窓、居室は、鍵をかけず本人がいつでも出入りできるよう取り組んでいる。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフは常に目の届く所において利用者の状況を観察できるようにしている。夜勤巡視時定期的に利用者の状態を確認するとともに状況を把握しやすい場所で見守りを行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁や刃物系、医薬品や洗剤系は利用者の手の届かないところに保管しているが、玄関にお客様用の手指消毒液は設置してあるので、注意しながら見守り等行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者個別の状態から予測される危険性を検討し、事故防止の対応をしている。事故が起きた場合には事故報告書での他スタッフへの周知徹底、続けて事故が起きた場合、対応策の話し合いの機会を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	院長に救急時の対応の学習会、訓練等を行っている。日中、夜間帯の対応マニュアルを作成し、実際に各スタッフが訓練し緊急時に備えている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防署の協力、指導を受け入居者や地域住民も参加する定期的な避難訓練、避難経路確認、消火器の使い方等訓練を行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	御家族にその時の状況を説明し、現在の利用者の状況から考えられる対応策について説明を行い理解を得ている。入居時の説明では夜勤時間帯に起こった場合のある程度のリスクは理解していただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、一人一人の体調の状況をチェックし把握している。少しでも変化に気づいた場合は自己判断せず院長に報告し指示を仰ぐようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルし、スタッフはいつでも薬の確認が出来るようにしている。服薬時は直接手渡し、きちんと服用したか確認も行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜類、食物繊維の多い物を摂る。果物等も食事面での配慮をし、牛乳やヨーグルト類を起床時、お茶時に提供し又、毎日適度な運動を行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食事前の嚥下体操で唾液の分泌を促したり、食後のうがいや(拒否される場合は食後にお茶を飲むように勧めたり)歯磨きを行えるように支援している。入れ歯の汚染がある場合は就寝前に歯を外す時に洗浄剤を使用して清潔保持している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の記録で食事、水分摂取量をスタッフ全員が把握している。時々栄養士の先生に栄養指導や献立の点検評価を行ってもらったりする。又、個人の好みに合う味付けを心がけている。		協力機関の中で市役所保健課の方が管理栄養士で定期的に栄養指導をして下さっています。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルに順じ、スタッフへの周知徹底、早期発見・対応を行っている。インフルエンザワクチン等は入居者については御家族の同意をもらい、スタッフ全員予防接種を受けている。流行時には玄関に外来者向けの面会制限(感染症の疑いの方、熱や下痢の方)の張り紙をしたり、消毒液の使用推進、手洗いうがいの徹底に努めています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫内のチェック等行い、食品の状態を細かく確認している。食器やまな板の消毒も定期的に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には椅子を置き、出入りの際の靴の着脱がしやすいようにしている。壁画作成し雰囲気作りにも努めている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁画作成を行い飾れるよう努めている。トイレの電気も白内障の方向けに急に明るくならないよう配慮している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の気分に合わせて居場所が選択できるようにソファを設置したり、天気の良い日はウッドデッキにて日光浴をしたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具を持ち込んでいただいたり、家族の写真を飾ったり、壁画を貼ったりし工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温室時計をリビングに設置し、利用者が過ごしやすい環境になるような設定に心がけている。常時換気は行えるよう24時間換気システムが各居室に設置してある。居室で過ごしていない時には、窓を開けて換気をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の残存機能や役割(自主的な気持ち)を活かせるように手すりやキッチンにも工夫があり、安全な生活が送れるように努めている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室、トイレなどに表札を付けたり、個人の理解力を把握して、分かりやすい目印を付けたりして配慮している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	食堂の大きな窓からは自由に出入りでき、余暇活動としても使用できるウッドデッキがある。行事の際にも使用したり、洗濯物が干せるスペースもあり、天気の良い日は外で水分補給をするなどして楽しめるようにしてある。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームでは、出来るだけ家の中に閉じこもりをなくそうと、社会交流の一環として外出する機会を設けています。開設者（院長）は朝・夕訪問し、毎朝一緒にラジオ体操を行っています。また、身体レベルの低下防止の為にほぼ毎日、スタッフで行える簡単なリハビリ運動や、同法人のクリニックにてのリハビリ運動を実施しています。地域交流に向けて、行事の中で地域の方々にも気軽に参加して頂けるように呼びかけも行っていきます。